

令和6年度第1回三島総合病院地域協議会 議事録

開催日時: 令和6年10月17日(木) 13時30分～

場 所: 三島総合病院 東棟 大会議室

出席者: 委員) 吉富 雄治 (一般社団法人三島市医師会会長)

浅見 徹哉 (三島市健康推進部・健康づくり課長)

志村 肇 (三島市谷田押切町内会役員)

病院) 赤倉 功一郎 (三島総合病院院長)

大沼 以恵 (三島総合病院看護部長)

渡辺 正芳 (三島総合病院事務長)

林 恭平 (三島総合病院事務長補佐 (医事) 附属介護老人保健施設
管理課長補佐併任)

【次 第】

1. 病院長挨拶
2. 三島総合病院の現況について
3. 三島総合病院への要望事項について
4. その他
5. 閉会

1. 病院長挨拶

当院院長より三島総合病院の地域医療への貢献を高めるため、忌憚のない意見交換をお願いしたい旨の挨拶あり。

2. 三島総合病院の現況について ※詳細については当日配付資料参照

(1) 病院の概況

- ・ 現在の病床数は159床で、急性期・回復期医療を中心に展開。

- ・ 医療圏内の人口減少・高齢化が進行し、今後の医療需要の変化を考慮する必要がある。

(2) 診療科目と人員状況

- ・ 16診療科を標榜しているが、一部診療科については非常勤医師による対応
- ・ 令和6年10月より皮膚科に常勤医師を確保。
- ・ 整形外科の常勤医師が不在であり、医師確保が喫緊の課題。

(3) 経営状況

- ・ 直近3か年の経常収支はすべて黒字であり、当年度も黒字基調で推移。
- ・ 令和5年度以降は病床確保料等のコロナ関連補助金が大きく減額されるため、どの病院も一層の経営基盤の強化が求められるところであるが、当院は同補助金をほとんど受領していない状況で黒字を確保しており、健全経営を維持できているものと考えている。
- ・ 今後は病院以外にも、健康管理センター、訪問看護ステーション事業などの収益確保もより一層重要になるものと思われる。

(4) 当院の課題と今後の対応

① 医師確保の課題

- ・ 静岡県東部地区は慢性的な医師不足状態であるが、県内唯一の医大である浜松医大が県西部にあり、地理的に県東部への医師派遣は積極的ではないことに加え、県東部には関東圏の大学との結びつきがある病院が多く、そもそも大学からの医師派遣自体が難しくなってきたことも医師不足の要因のひとつである。当院も直近は関連大学からの医師派遣も厳しく、紹介業者も活用しているが、医師確保が難しい状況は解消されていない。
- ・ 医師少数スポットでの勤務を義務化している県の医師育成プログラムが開始予定であり、当院への将来的な医師派遣に期待したい。
- ・ 非常勤医師の活用と、地域定着のための環境整備が必要と考えている。

② 近隣医療機関との顔の見える関係の強化

- ・ 近隣医療機関との連携強化を推進（地域医療連携室の体制強化（人員増他）施設訪問、広報誌、ホームページの充実）
- ・ 地域包括ケアの推進研修会の開催。

③ 職員の働き方改革に向けた取り組み

- ・ 時間外勤務縮減、年次有給休暇取得促進への取り組みを強化
- ・ 医師の長時間労働問題の改善が課題。

3. 当院への要望事項

特になし

4. その他

外部委員) 医師の定着(常勤採用)を促す方策は何か考えているか? 行政もキャンペーンを展開するなどの施策も必要ではないか。

病 院) 非常勤医師の確保は一定の成果があるが、常勤医師の確保は難しく、今後は三島市の住環境の良さをアピールし、医師の定着支援策を強化していきたい。

以上

※ 次回会議について

次回の開催候補日は令和7年3月6日(木)を予定。